

まちなか図書館ワークショップ

第2回開催レポート



-全3回プログラム-

第1回

まちなか図書館にはどんな本がいい？

～どんな時に、どんな人と、どんな本で、何をする？～

日 時 | 令和2年7月19日(日) 午後2時～4時

場 所 | 中央図書館3F 集会室

第2回

「本の倉庫」から「本のある広場」へ

～まちなか図書館をみんなでシェアするために～

日 時 | 令和2年7月26日(日) 午後2時～4時

場 所 | 中央図書館3F 集会室

第3回

「本のある広場」で何をする？

～まちなか図書館をみんなの活躍の場にするために～

日 時 | 令和2年8月9日(日) 午後2時～4時

場 所 | 中央図書館3F 集会室

「まちなか図書館」の具体的なサービスや機能について、参加者が意見を出し合って「新しい図書館づくり、そして豊橋のまちづくりに参加しよう」という全3回のワークショップ。

今回は、第2回ワークショップの概要についてお知らせします。

2回目ということもあって、リラックスし、打ち解けた雰囲気の中で、時に斬新な、時に優しい、そして利用する人の立場に立ったアイデアが披露され、楽しく和やかなワークショップとなりました。

第2回ワークショップの流れ

時 刻	内 容
PM2 : 00	○あいさつ ○ワークショップの主旨、進め方等の説明 ○アンケート結果の共有 ○ファシリテーター紹介 ～フリーライター 谷 亜由子 氏～ ○まちなか図書館（仮称）の概要説明（館内ルールに関して）
PM2 : 15	○グループワーク テーマ：「本の倉庫」から「本のある広場」へ ～まちなか図書館をみんなでシェアするために～ [グループごとに] ・グループワークの進行役、発表者、タイムキーパー、もりあげ隊の決定 ・テーマ①図書館でおしゃべり、していいの？ ◇交流の拠点として ・テーマ②図書館での飲食って、アリ？ナシ？ ◇飲食のメリット、デメリット ・テーマ③自習、していいですか？ ◇多様な使い方のために ・グループ案作成（発表のためのまとめ）
PM3 : 30	発 表
PM3 : 50	ファシリテーターによる講評

グループワーク

テーマ① 図書館でおしゃべり、していいの? ～交流の拠点として～

テーマ② 図書館での飲食って、アリ?ナシ? ～飲食のメリット、デメリット～

テーマ③ 自習、していいですか? ～多様な使い方のために～

これまで言われてきた 図書館の三大禁止事項

会話



飲食



自習



今回のファシリテーターは、まちづくりの分野でさまざまな取り組みを実践してこられたフリーライターの谷亜由子さんです。

中央図書館が開館した当時、高校生だった谷さんは、新しい図書館が大好きで、毎日のように図書館に来ては友達とおしゃべりばかりしていて、図書館の人によく叱られた!とのことでした。

和やかな雰囲気ではじめた第2回のテーマは、

「本の倉庫」から「本のある広場」へ。

図書館の利用の中で意見が分かれる「会話や通話」「飲食」「自習、パソコンの使用」に的を絞って、みんなが快適に過ごせるようなルールを模索していきます。



そんなエピソードをお持ちの谷さん、まちなか図書館でもそんな光景が見られるのかしら? ということでグループワークに入っていきます。

「会話」については、ちょっとしたおしゃべりと、会合やディスカッション、グループでの活動では異なりますし、それぞれについて考えなければなりません。



グループワーク

テーマ① 図書館でおしゃべり、していいの？ ～交流の拠点として～

テーマ② 図書館での飲食って、アリ？ナシ？ ～飲食のメリット、デメリット～

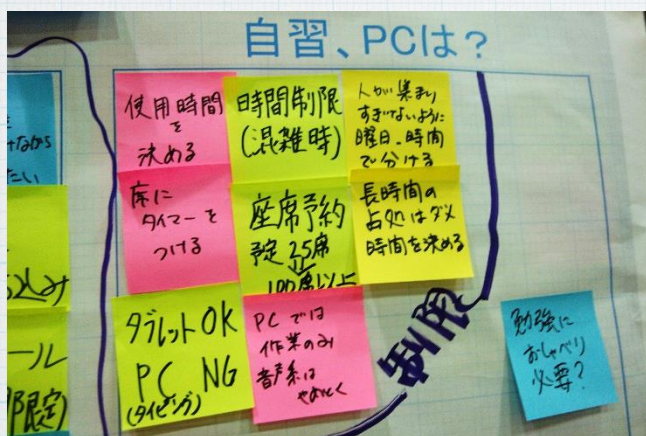
テーマ③ 自習、していいですか？ ～多様な使い方のために～



ひとくちに「会話や通話」や「飲食」、「自習、パソコンの使用」といっても、幅がありますので、いろいろな場合を想定して話し合っていきます。



テーマが具体的だということもあってか、付箋の数がハイペースで増えていきます。それぞれのテーマに、幅広い意見が出ました。



自習やパソコンの使用についても、考え方が分かれる部分が出てきます。誰もが過ごしやすいようなルールとは？みんなで考えます。



意見を戦わせたりすり合わせたり、あっという間に時間が過ぎて、グループ案の作成に入ります。そして発表へ。

2回目ということもあり、みなさん積極的に意見を出し合い、手際よくグループ分けを行うなど、どのグループも模造紙一杯にアイデアを絞り出していただきました。

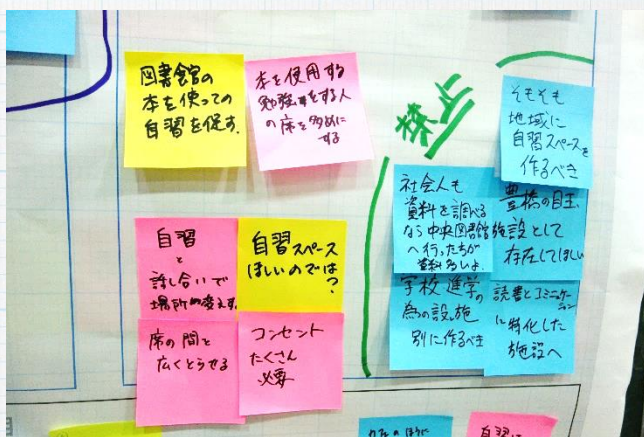
Aグループ発表

カフェに行くような感覚で既存の図書館との差別化を
事前にすべて決定せずにテストを重ねながらルールも柔軟に



「滞在型の図書館を目指すのであれば、飲食は不可欠では？」と提案したAグループ。館内に「ピクニックゾーン」を設けてはとの具体的な提案も出ました。

また、「読書とコミュニケーションに特化した施設に」「豊橋の目玉施設として」といった、既存の図書館との差別化を期待する意見が多く出されました。



「普段から図書館を利用しない人に来館してもらうには？」をターゲットに考えたAグループの提案は、「カフェのイメージ」を前面に打ち出すというもの。「図書館は入りづらい」というイメージを払拭するためにも「今日はカフェに行く」というイメージをもってもらえるような空間やサービスを提供してはとの意見が出ました。哲学カフェや時間帯によるアルコールの容認など他館との差別化を図るとともに、先進的な取り組みについては、「事前にすべて決めてしまうのではなく、月替わり、週替わりなどでテストをして決定してはどうか」という柔軟な意見も出ました。

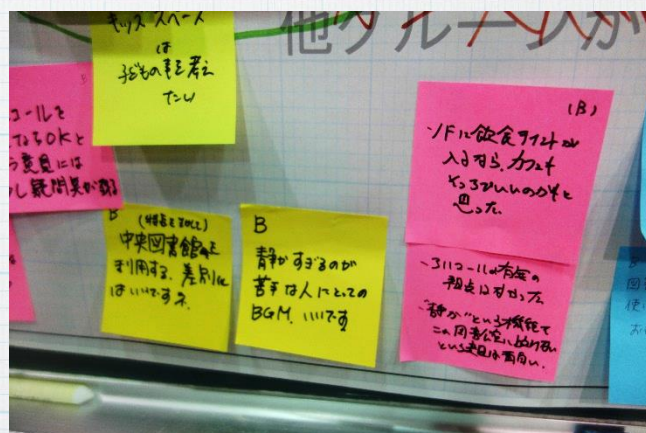
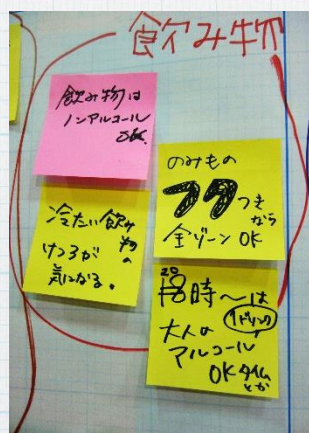
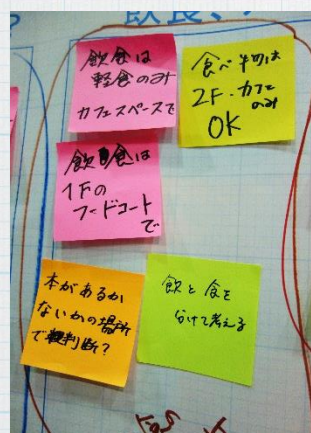
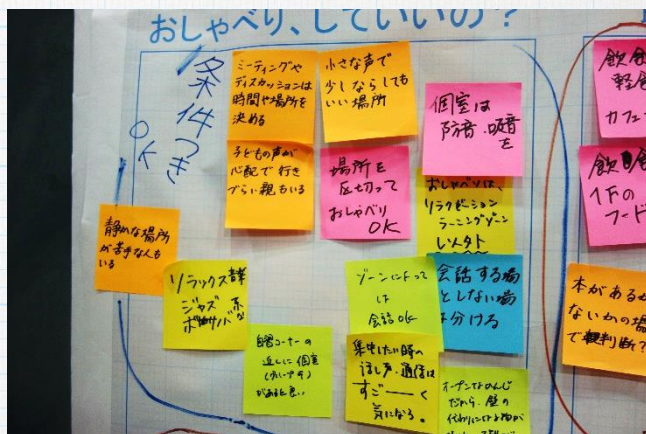
感想欄には、他施設との差別化を積極的に図るべき、という点に賛同の声が集まりました。

Bグループ発表

照明やBGMの誘導による魅力的なゾーニングを 静かな場所が苦手な人も受け入れられる受容性を



「BGMや照明をゾーンごとに使い分け、自然に会話をしたり、活動をしたり、リラックスしたりできるような空間を演出するなど魅力的なゾーニングをしては？」というアイデアが出されました。また、「〇〇禁止」の表示は見る人に「拒絶された感覚」を与えかねないので、ルールの提示はセンス良く、ソフトに、という意見もでました。



BGMの導入案は他グループでもありましたが、Bグループの提案理由は静かな場所が苦手な人のため。いろいろな人への想像力が光ります。「子どもの声が心配で行きづらい保護者にも安心して図書館を楽しんでもらえる雰囲気としては」といった親子連れに配慮した意見も出ました。

「きつく注意されると利用しづらくなってしまう」といった意見もあり、ルールそのものに加え、ルールの伝え方についても検討する必要性があるとの意見も出ました。

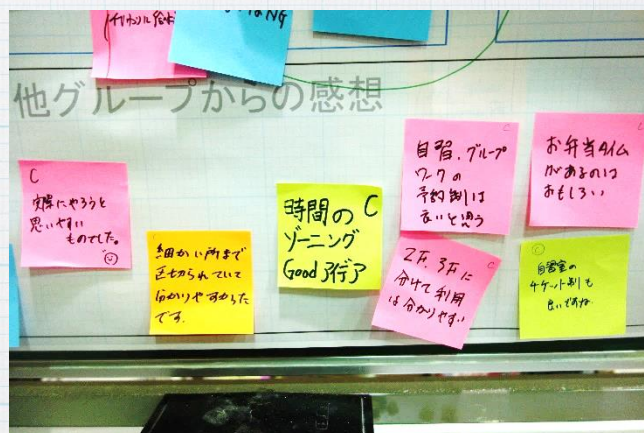
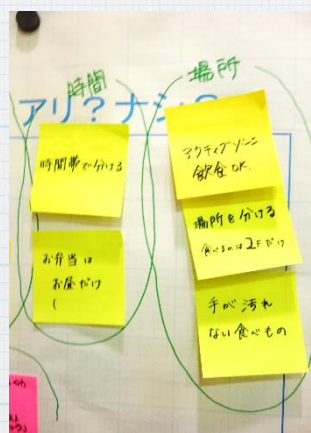
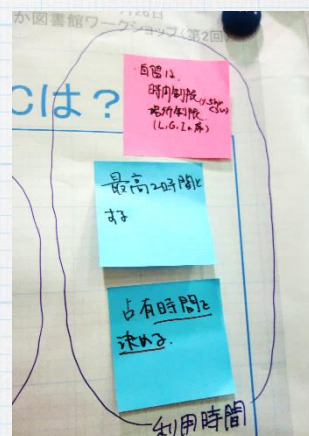
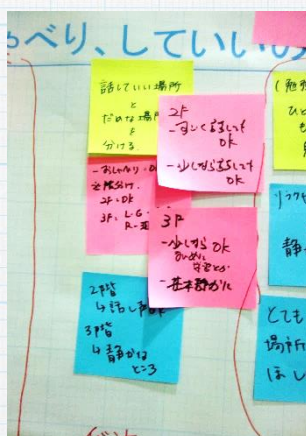
感想欄を見ると、BGMを活用したゾーニングが好評でした。

Cグループ発表

館内のグラデーションでそれぞれが快適に過ごせる場所にグループ活動を促すためのゾーニングや空間利用を



Cグループは、どのテーマについても「場所」「時間」を区切って考えることによって、誰もが滞在しやすい空間を目指しました。混雑が予想される場所は時間制限を、人を不快にしたり本にダメージを与えたりしそうな行為については禁止を、という「締めるべきところは締める」といった意見もありました。



『「時間」「場所」とともに細かくグラデーションをつけたゾーニングを』というCグループ。「奥へ行くほど静かに」といったイメージです。食べてよいもの、ダメなものを考える中で「手が汚れない食べ物はOK」や「ちくわは食べてもいいよね、臭いも音もしないし」という意見から発展して「近隣の店舗と提携して、図書館に持ち込みOKとしてはどうか」といったアイデアも出ました。また、グループ活動を促すためにも、「グループでのテーブルの予約ができるように」といった意見や、「自習のための座席の利用は時間を制限しては」といった意見が出ました。

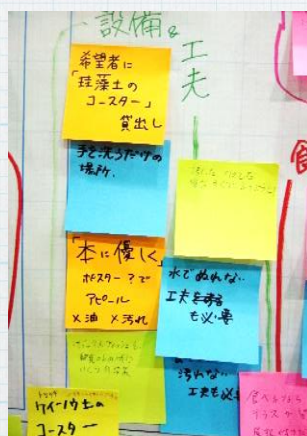
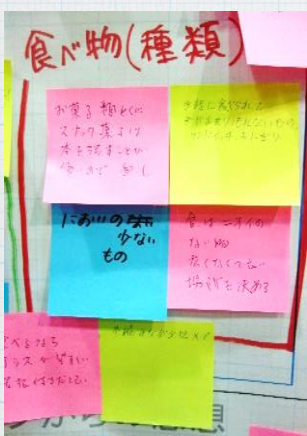
感想欄にも「時間」「場所」を意識したグラデーションによるゾーニングに対し賛意が見られました。

Dグループ発表

将来の本好きを増やすための雰囲気づくりを 活動の自由動を高めるための具体的な手法とは



Dグループは居心地重視のゾーニングを提案。
「BGMを流せば子どもの声も気にならないのでは」との意見が。また、「司書などのスタッフに気軽に声を掛けられる雰囲気が重要」といった、将来の本好きを増やすための雰囲気づくりや図書館の使い方につながる意見が出ました。自習などについては「時間や曜日で区切っては」というアイデアも。



気兼ねなく過ごすために「あれをしたい」「これが欲しい」というところにとどまらず、活動の自由度を上げるために「何を用意し、何を制限するべきか」などを具体的に検討しました。

例えば、「冷たい飲み物は飲みたいけれど、ペットボトルをテーブルに置くと水滴で本が濡れる可能性があるよね」といった意見には、「珪藻土のコースターを貸出して水濡れを防いだらどうか」といった意見や、「ゆっくりと館内で勉強したいけれど、他の人の利用も妨げたくないよね」といった意見には、「リストバンドの着用で滞在時間の管理をしてはどうか」など、小物を使った具体的な提案がありました。

他のグループからの感想もそれらの具体的な提案と雰囲気づくりの両面に評価が集まりました。

ひとつひとつの意見にそれぞれの思いがある
みんなでつくるまちなか図書館を互いの価値観を認めあい
磨きあう場所に



すべてのグループの発表が終わり、ファシリテーターの谷さんからの講評です。

まちなか図書館のイメージをしっかりと練り上げて、そこにふさわしい過ごし方の提案を、明確な理由とともにされているところを評価していただきました。また、「提案の内容が同じでも、そこに至る思いがさまざまであることを知ることができるのがワークショップの意義深いところですね」と評価していただきました。



Aグループは「革新的・実験的な案」。極端なアイデアと思いながらも話題にすることで、実際の落としどころを狭めていないところが特によい、と評価されました。

Bグループは「主体性のある案」。こんな風に過ごしたい、こんな図書館がいい、という意見のもとになる体験やエピソードがリアルで、説得力を感じたということです。

Cグループは「合理的な案」。理にかなっていて無駄がないけれども「ちくわは食べていい」というような血の通ったルールがユニーク、とのことでした。「提携店舗」もファシリテーターの考えていた方向性に重なるものだったようです。

Dグループは「優しい案」。図書館を利用する人が気兼ねなく、のびのびと過ごせる。そんな雰囲気を醸し出すルールを考えたところがよかった。また、リストバンドやコースターなど「小物を使ったアイデアも秀逸」と褒めていただきました。

「革新的・実験的」「主体性」「合理的」「優しい」といったこれらの特徴を実際に取り入れ、また、こういった意見をもった人たちが図書館と関わり続けていけば、まちなか図書館はたくさんの人たちに利用され、愛される図書館になるのでは、というエールをいただきました。